

小野測器を支える創業の精神



誰もやらないから、挑戦する価値がある

小野測器は、創業者 小野義一郎の“挑戦と創意工夫の積み重ね”から生まれました。戦後間もない日本、趣味で覚えたラジオ修理から“腕のいい電気屋”の口コミで名が広まり、精密級と認められた騒音計が電気試験所に採用されました。その後発明した、水晶発振器の発振周波数を基準にした電子管計数器がデジタルCPUに結びつき、“デジタル技術”として発展しました。

戦時の混乱のさなか、外地で電気工学や機械工学を学び、時代に必要とされた、だけども誰も作ったことがないものに仲間と挑戦し続けたその精神が、今日の小野測器の土台となっています。

2024年、当社は70周年を迎えました。人々のライフスタイルや考え方が多様化している今、「100年企業」への成長に向け企業理念を再言語化しました。新しい企業理念には、社会が大きく変化している中でも変わらない当社の存在意義と、環境に柔軟に、素早く対応していく未来の姿をしめしています。創業の精神「誰もやらないから、挑戦する価値がある」を受け継ぎながら、計測機器メーカーとして、「数値に真摯に向き合う。そして、“はかる力”で社会課題の“今”と“未来”をつなぎ、サステナブルで豊かな未来をともに創っていきたい。」という想いが込められています。

企業理念

MISSION

未知を拓き、未来を創る

小野測器は、創業時から計測技術で挑戦を続け、新しい道をひらいて、夢の実現に寄り添ってきました。数値に真摯に向き合う姿勢やお客様視点は、世代を超えて引き継がれています。私たちの使命、それは、創業者の想いを胸に、仲間とともに、社会とともに、未知の現象に挑み、未来をつくっていくことです。私たちはこれからも“はかる”力で“はかり知れない”価値をつくり続けていきます。

VISION

人とテクノロジーのより良い関係を支え
サステナブルな社会の実現を加速させる

時代とともに変化していく社会の課題を“はかる”力で可視化し、解明していく。その積み重ねが人々の暮らしを支えてきました。テクノロジーの発展の先に、サステナブルな社会が実現することを信じ、私たちは計測という領域で磨きをかけていきます。

VALUE

はかる・わかる・つながる

数値に真面目に、はかる
専門家が集まることで、わかる
柔軟な現場対応で、つながる

私たちは、お客様の達成したい目標に対し、状況に応じた解決策を考え、行動します。

SPIRIT

自分の言葉で語り、意志を持ち、挑戦を楽しむ
対話を大切に、仲間を尊重し、最善を追求する
社会を意識した、価値づくりにこだわる
誠実に・前向きに、明日への一歩を積み重ねる

トップメッセージ

先行き不透明な今こそ、原点回帰 “挑戦”なくして成長はありません

代表取締役社長
大越 祐史

小野義一郎氏の言葉を胸に秘め

はじめに、令和6年能登半島地震により犠牲になられた方々に深く哀悼の意を表し、心からお見舞い申し上げます。また、被災地域の皆様の安全と一日も早い復興をお祈り申し上げます。

当社は、2024年1月20日に創業70周年を迎えることができました。ここまでやってこられたのは、ひとえにお客様を始め、取引先、ステークホルダーの皆様のお力添えあっての70年だと痛感しております。厚く御礼申し上げます。

おそらく私は、経営者としては、当社の創業者である小野義一郎氏から直接薫陶を受けた最後の世代になるかもしれません。私が当社に入社した頃を振り返ると、小野義一郎氏はたまにお見かけするくらいで、仕事上の接点はありませんでした。ただ「この人と一緒にいる時間や空間、なんかいいな」と思わせる方だったことをよく覚えています。当時の当社は、良い意味で家族的な、まるで町工場のような、人と人との親密な関係性、仲間意識の強い会社でした。自分より遥かに偉い人でも下の名前やあだ名で呼べるような関係性は、当社の良いところだと思っています。

時代は下り、2024年、70周年を迎えるにあたり、私は「誰もやらないから、挑戦する価値がある」という小野

義一郎氏の言葉を思い出しました。次なる100周年に向け、これから先の30年、新しいことに挑戦しなければならない。新しい価値を生み出し、社会の安心と安全、より豊かな生活を“はかる”力で下支えしていきたい。そのためには、会社の根幹をなす経営理念を再定義すべきだと考えました。

新本社のテーマは「笑顔つながる」

新しい企業理念の詳細については前ページを参照していただきたいですが、この理念のベースについては社内有志で構成される「長期ビジョン実現プロジェクト」に考えてもらったものです。社員一人ひとりが自立し、自らが考え、自責で行動できる組織にしたい。今回、企業理念を再言語化するにあたって同じ思いでメンバーに知恵を絞っていただきました。

新しい企業理念、そして70周年を迎えるにあたり、これから述べることに注力したいと考えています。

今後も持続的な成長を続けるためには、若い人財の確保、そして若い世代が働きやすい職場を作ることが急務です。当社は2024年4月にみなとみらいに本社を移転しましたが、リクルーティング活動の促進も理由の一つです。新本社のフロアをデザインするにあたり「笑顔つながる」をテーマに、若い

世代の社員の意見を取り入れました。具体的には、フロアを壁で仕切らず一つの部屋として、コミュニケーションエリア等を設けることで、部署の垣根を越えたコミュニケーションが活発になることを狙いました。

また、当社が創業以来、ずっとサポートさせていただいている自動車産業へ貢献がしたい。そこで、本産業の花形であるモータースポーツで頑張っている若い世代を、ささやかですが応援させていただくことにしました。当社は、若手レーシングドライバーである野田樹潤選手とスポンサー契約を締結しました。彼女は18歳ながら、アジア人女性初のF1チャンピオンを目指して日々頑張っています。その姿に私は感銘を受けました。当社がサポートできることはわずかではありますが、全力で応援したいと考えています。近日中にはスポンサー活動の詳細を発表させていただきます。

モノコトモノの環をつなげる

我々が深く関わっている自動車産業ですが、同産業は現在100年に一度の大変革期を迎えております。CASEと呼ばれる新たな技術領域での革新が進み、開発現場では試作車を作らないモデルベース開発がスタンダードとなりつつあります。そんな中、当社の強みである計測技術は活かせるのか？ そんな疑問を感じる方もいらっしゃるで

しょう。

当社は創業以来培ってきた“はかる”力で、風雲急を告げるこの時代を歩んでいきたいと考えています。モノコトモノの環をつなげる。その端緒として、EVのベンチマーキングデータを販売するビジネスを始めました。お客様の欲しいデータを計測するために自分たちの創り出した計測機器を使うことになるわけですが、自ら使うことで新たな計測機器のアイデアも生まれます。そんなプラスのサイクルを回していきたいと考えています。

またカーボンニュートラル社会実現の取り組みなど、社会課題の解決に尽力することも欠かせません。当社は環境への取り組みを重要な経営課題と位置づけ、2024年より「環境戦略推進室」を立ち上げました。当社の宇都宮テクニカル&プロダクトセンターの屋上及び敷地内に太陽光発電システムを設置したほか、製品の梱包材をサステナブル素材に変更しています。今後も引き続き環境保全活動に取り組んでいきます。

最後になりましたが、当社は創業以来ずっと、人財に恵まれてきたと思います。人を大切にする会社。お客様の要望や納期に応える、その一つの方向に向かって苦楽を共にし、仲間意識でがんばってきたと思います。

社員、いえ、仲間が笑顔になる会社。私が目指しているのは、そういう会社なのです。



未知を拓き、未来を創る



当社はモビリティ領域に寄与できる

当社のカラーは一言で言えば実直。日本の産業界において、多くの人々と出会い、夢を支えるために、黒子に徹してきたといえるかもしれません。このような実直さをつないでいくことは重要ですが、さらに飛躍するためには、イノベーション創出のための探求心や自らテーマを設定し挑戦する事業推進力を高めることが必要です。

私は、事業において大切なことの一つは「その人をいかに活かすか」と考えています。なぜなら、一人ひとりの活躍があってこそ会社が成果を生むわけですから。安全や健康、そして働きやすさといった環境を整えるとともに、働きがいを高め、個の成長と活躍の支援を行う。個性あふれる人財が、顧客との接点や社外との連携といったつながりの中で、新たな視点を得て成長を実感する。たくさんの個性が協調・協力してつながりを強め、持続することによって人も会社も成長していく。そんな、人そのものが付加価値であり、人が付加価値を生み出す組織でありたいと願っています。

当社の企業価値を資産とPBRという観点で見ると、事業を行うための安定的な資産は確保できている一方、リーマンショック以降、成長性という点では市場からの評価を得られていません。価値創造プロセスにおける人的・知的・製造等の資本を社会的価値創造に



管理／製造領域担当 取締役
濱田 仁

「人が付加価値を生み出す組織であり続けたいと思っています」

つなげることにより、資本収益性が劣るという現状を打破することが必要です。

今や企業において、サステナビリティは事業の成長を支える重要な要素です。産業界がカーボンニュートラル実現という大きな課題に取り組んでいる中、当社の事業は主にモビリティ領域において大きく寄与できるものです。当社自身が新たなテーマに取り組み、研究開発や設備投資、他社との連携等でこの機会を捉え、事業の成長と企業価値の向上を実現していきたいと考えています。

お客様視点のモノづくりを加速させる

この数年で社会が大きく変化しました。働く環境の変化、シミュレーションを中心としたものづくりの方法等、その変化は激しく、さらに加速しているように感じられます。そのような環境の中で、当社が長く培ってきた機械計測における技術力は、高精度なシミュレーション中心の開発手法を支える等、時代を超えて、さらに重要性を増しています。

当社は3つの重点施策により「企業価値の向上」を目指しています。一つ目は、持続可能な社会の実現に向け、当社が培った技術力をトータルソリューションで社会に提供し成長を実現する「成長戦略」です。カーボンニュートラル対応を含む環境、SDGsなどを含む社会課題への対応に対し、環境負荷低減に向けた次世代自動車開発、次世代燃料、自動運転支援、空調機器開発をターゲットにしています。計測、解析、課題解決、ベンチ運用等のエンジニアリングでサービスによる収益を確立すると同時に、そこから得られる市場情報をいち早く商品開発へとフィードバックし、お客様視点のモノづくりを加速させていきます。

次に「業績伸長戦略」として、海外市場での販売強化により収益の拡大を図ります。国内の売上がベースを作り、海外現地法人の販売体制を強化するとともに、さらなる販路拡大に取り組ん



営業本部担当 取締役 小池秀昭

「地域ごとのニーズに迅速に応え 新市場の開拓を目指します」

でいきます。また、マーケティング強化をはかり、地域ごとのニーズに応える“お客様視点でのものづくり”を推進することで、新市場の開拓に取り組んでいきます。

少子化、高齢化等働き手の確保が難しくなっています。DXとオープンイノベーションを推進し、変化する市場において、革新的で競争力のある商品を提案していけるよう「構造改革」も推進します。創業以来の基本精神である「誰もやらないから、挑戦する価値がある」に常に立ち返りながら、お客様視点での商品づくり、課題解決を目指していきます。

逆境こそ新規ビジネスのチャンス

当社が主戦場としてきた自動車産業は、CASEの登場により100年に一度の大変革期を迎えています。カーボンニュートラル達成に向けたEV化が加速し、その設備投資が重点的に行われています。同時に開発のデジタル化も進み、ソフトウェア開発に適用されてきたV字開発モデルが自動車開発へも適用され、MBDをはじめとしたフロントローディングにより試作レス化が進んでいます。

このように、従来の“計測”をめぐる状況は目まぐるしく変化しており、そのニーズは大幅に減少していくようにも思えます。ですが、当社の強みはデジタル開発やコト売りビジネスの領域において、今なお欠かすことができないものなのです。

たとえば、当社は長年、車両・コンポーネントの受託試験を請け負ってきましたが、その知見を活かし、2023年からEVのベンチマーキングレポート販売を開始しました。お客様が必要とするデータを先行して取得、販売することで、次世代EVの開発支援を通じ、カーボンニュートラル社会へ貢献したいと考えています。

また、「人がどう感じ、何を思うか」を仮想空間で再現することにもチャレンジしています。具体的には、当社が得意とするxVRS(バーチャル・リアル評価システム)技術と計測技術にMBD



技術本部担当 取締役 葛西 功

「当社の技術力を存分に活かし デジタル領域にも進出します」

を掛け合わせた技術開発を推進中です。

新規ビジネスであるクラウドサービスSound Oneは、感性と物理をつなぐ音のプラットフォームです。これまで対面で行っていた聴感実験をWeb上で簡単にテストできるアプリケーションを販売中です。

さらに、現地開発やリモートワークといった新しい働き方を支えるべく、ベンチシステムの運営サポートを行う遠隔監視システムを進化させたクラウドサービスを2024年に開始します。

このように当社が培ってきた技術を活用することで、デジタル開発の発展にも貢献できると考えています。

自さを誇りに思える会社を目指す

当社は高い技術力に加え社員の真面目で謙虚な気質が土台にあり、それが強みでもありますが、より成長していくためにはアグレッシブさも必要だと考えています。たとえば、資本コストや株価に対するさらなる意識の向上、「いつまでに誰が何をするか」を明確にする企業風土の強化、全社一丸となって目標に拘り達成しようというパッションの醸成等です。また社内外のステークホルダーに対し、各役員が自ら事業戦略や販売・開発戦略のストーリーを明確に語ることも重要です。

一方で、事業面でキーとなるのは「電動化への対応」と「海外戦略の加速」だと考えています。内燃機関から電動化・新燃料へのシフトが進む中で、事業ポートフォリオをどう変化させていくのか、また新規事業や海外事業・コトビジネス等の成長事業への投資計画等について、検討状況を注視していきたいと思っています。

社外取締役としては、今後も経営が適正適切に行われているかをモニタリングする役割を果たすとともに、これまでの経験に基づく助言の実施により、当社の持続的な成長と中長期的な企業価値の向上に努めていきます。また、社員の皆さんが当社で働くことに誇りと喜びをより感じられる組織の実現に向けて、支援していきます。

社外取締役メッセージ

まだまだ伸びしろがある 老舗計測機器メーカーができること



社外取締役 木村岩雄

「アグレッシブさもプラスし、
持続的な成長と発展につなげる」



社外取締役 飯田訓正

「高い技術力と人財に恵まれて
いることが大きな強み」



新市場の開拓に挑戦せよ

私は、自身の社外取締役としての役割は「小野測器を安心・充実・将来性・可能性が実感できる会社にする事」だと考え、日々取り組んでいます。

当社は、高い技術力と人財に恵まれていることが強みとして挙げられます。技術的に特異性・優位性があり、ニッチな市場でシェアが高いという良い点がある一方で、現状ではまだメジャーな市場においてはその強みを十分に発揮できていない、と私は感じています。今後の会社の成長のためには、強みである当社の特異性や独自性をさらに深めて大事にしつつ、これまで長年に渡り培ってきた資産とノウハウを存分に活かし、環境の変化に応じた「足らざるを補うための取り組み」を常に行っていくことがとても重要なことだと私は考えています。

当社の経営陣や日々奮闘する社員の皆さんには、当社を取り巻く環境の変化を意識して社会的な存在意義（ミッション）を常にアップデートし、新たなマーケットと顧客の開拓にどんどんチャレンジして欲しいと思います。

また、その取り組みや想い、当社がやれること・できることをステークホルダーにもっとアピールすることで、さらなるチャンスにつなげて欲しいと思います。